

## 芭蕉の葉に似た 大きな背鰭

自然が作り出す造形の美しさには、ときおり、目を奪われることがあります。今回はバシヨウカジキ。長崎大学水産・環境科学総合研究科教授の山口敦子先生、解説をお願いします。

「日本近海に見られる六種のカジキ類のうち、バシヨウカジキは、長く伸びた円錐形の吻(上あご)に加えて、斑点模様のある芭蕉(バナナ)の仲間)の葉に似た大きな第一背鰭を持つことで、容易に見分けられます。バシヨウカジキのことを長崎で『バレン』『ハウオ』などと呼ぶのも大きな背鰭を例えたものです。全長は最大で三メートルを超えます。インド・太平洋などの熱帯から温帯域に広く分布し、外洋の表層を回遊しますが、カジキ類の中では最も沿岸まで近づいて来ます。

三メートル！大きいですね。

「バシヨウカジキ属を示す *Istiophorus* は、帆(istion)を持つ者(Dhorus)という意味のギリシヤ語に由来します。種小名をあらわす *platypterus* も同じく、大きな翼状の鰭を持つという意味です。普段は体に沿った溝に格納されている背鰭を大きく広げると船が帆を張ったかのように見えることにちなみ、英名を *Sail fish* と言います」。

「本通し」となり、『カジキ』の由来となったように、高速遊泳中のカジキは船を目前にしても急旋回して回避できず、しばしばその吻が船に突き刺さることもあるといいます。

へえ、メキシコのそのツアー、見たいような、怖いような……。

## 秋を告げる魚 「秋太郎」

「長崎をはじめ九州の沿岸では、夏頃からバシヨウカジキがよく獲れるようになります。水温が下がりはじめると秋には脂がのって美味しくなるため、鹿児島では秋を代表する魚『秋太郎』として親しまれてきました。スーパーでは『カジキマグロ』の名でお馴染みですが、実はマグロの仲間ではありません。大型で身のようにすが似ていることからそう呼ばれるようになったのでしょう。身はマグロに比べて薄いピンク色で、脂も少なくあっさりしています。でも、秋太郎の刺身は一味違います。旬の新鮮なバシヨウカジキのトロの部分は、上品な脂身と旨みが合わさって絶妙な美味しさです。身にある筋の多さはバシヨウカジキの価値を下げてしまわないので、上手に捌く必要があります。日本人はマグロを好みますが、九州では脂の乗ったカジキを近海で漁獲できるので、カジキ食文化が発

## 巧みな剣の 使い手

「海の中では最速と認められるカジキの中で、バシヨウカジキは時速一〇〇キロメートルを超えるトップレベルのスピードを誇ります。好物の魚やイカの群れを発見すると、背鰭を折りたたんで高速で追跡し、魚群に近づくと、たたんでいた大きな背鰭を素早く広げて急停止します。鰭はブレーキの役目も果たすのです」。

長い吻の出番はあるんですか？

「メキシコ湾ではバシヨウカジキが集団となり、緩急をつけた巧みな泳ぎでイワシの大群を追い詰めていくようすが撮影されています。群れを成し、狩りの最中にあるバシヨウカジキの体側には、美しいストライプの玉模様が浮き上がっています。太陽の光が海面に強く差し込み、輝くような青色の獵場で、カジキたちの体は光を受けてより一層青く輝きます。誰もが一瞬で魅了されることでしょう。最後には長い吻を振り回し、逃げ場をなくした獲物たちを次々に叩き、一匹残らず食べ尽くすと、再び優雅に泳ぎ去ります。メキシコでは最近、潜って捕食シーンを見学するツアーもあるようですが、吻が人に刺さらないか心配です。梶木(和船の船板)をも突き通すことから『梶

達したのでしよう。

今から十年前のこと、忘れられない光景があります。廃船までお世話になった小さな実習船『鶴水丸』に乗船し、長崎半島からほど近い東シナ海沖で魚類調査を行っていたときのことでした。手製の延縄道具を引き上げていた最中、テグスが揺れ、大物が釣れたのかと思った瞬間、大きなカジキが姿を現しました。すぐ真下に見える水面まで来て、あの長い吻の先で何度もテグスを右に左にと揺らしているのです。ふと見えなくなったかと思えば、遙か遠くで大ジャンプをして見せて、瞬く間に船まで戻り、また吻の先でちょんちょんとテグスをつつきまします。まるで悪戯をする子どものように。

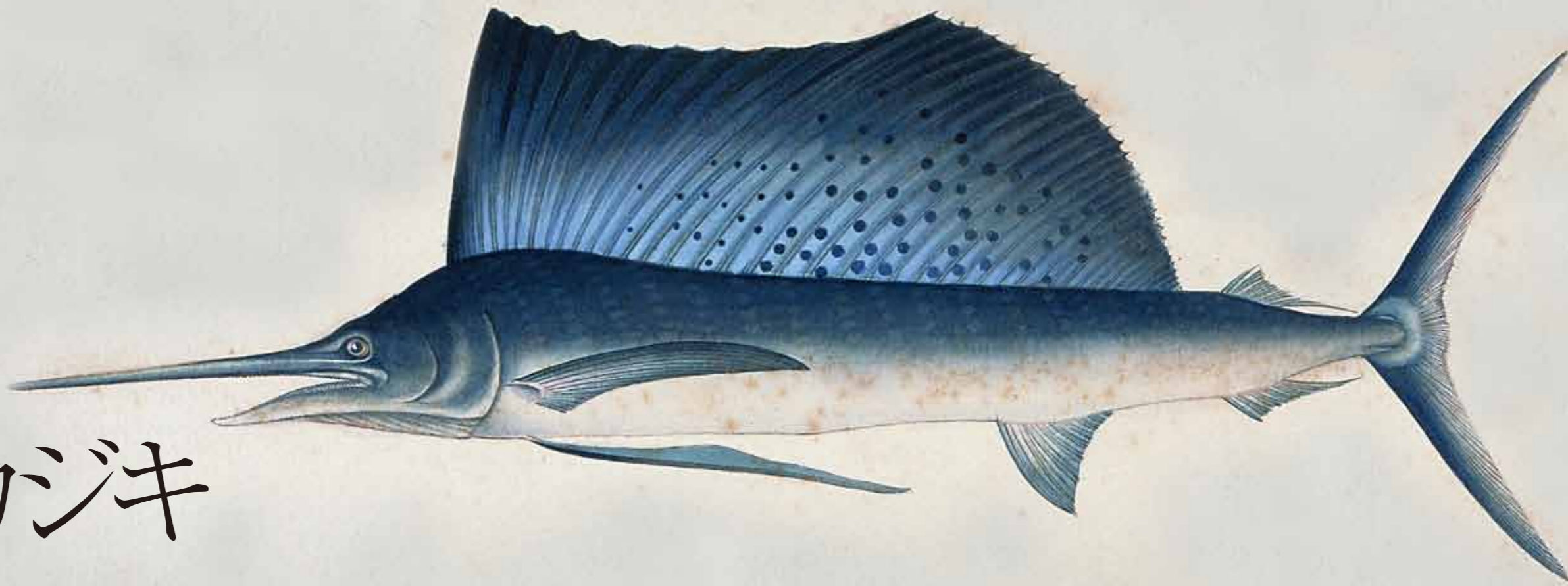
快晴で波風のない気持ち良い秋の日のことでした。どこまでも透き通った海の中でキラキラと光り輝くカジキは、鮮明な記憶だけを残して去っていききました」。

波静かな秋の海とカジキ——。船の上ならではの素敵なワンシーンですね。



解説 山口敦子  
長崎大学水産・環境科学総合研究科教授

Yamaguchi Atsuko  
東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了。2000年から長崎大学。専門はエイやサメなど魚類学と水産資源学の研究。主な著書に「干潟の海に生きる魚たち—有明海の豊かさの危機」(東海大学出版)など。



Glover Atlas

# バシヨウカジキ

*Istiophorus platypterus*

画家 萩原魚仙

グラバー図譜

日本西部及び南部魚類図譜

Fishes of Southern  
& Western Japan

長崎大学附属図書館のホームページでもご覧いただけます。

<http://oldphoto.lb.nagasaki-u.ac.jp/GloverAtlas/>